

## 循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
静岡県 浜松市	浜松市	平成 23 年度～平成 29 年度	平成 23 年度～平成 29 年度

## 1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※1) (平成 21 年度)	目標 (割合※1) (平成 30 年度) A	実績 (割合※1) (平成 30 年度) B	実績 B /目標 A
排出量	事業系 1 事業所当たりの排出量	2.49t/事業所	2.43t/事業所	2.45t/事業所	99.2%
	家庭系 1 人当たりの排出量	196kg/人	176kg/人	182kg/人	89.3%
再生利用量	直接資源化量	10,433t	10,124t	8,730t	86.2%
	総資源化量	63,444t	64,765t	48,546t	75.0%
減量化量	中間処理による減量化量	210,409t	200,775t	199,135t	99.2%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標		現状 (平成 21 年度)	目標 (平成 30 年度) A	実績 (平成 30 年度) B	実績 B /目標 A
総人口		820,971 人	838,800 人	802,728 人	—
公共下水道	汚水衛生処理人口	587,598 人	665,135 人	649,742 人	97.7%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	71.6%	79.3%	80.9%	102.0%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	2,602 人	4,240 人	1,838 人	43.4%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	0.3%	0.5%	0.2%	40.0%
コミュニティプラント	汚水衛生処理人口	677 人	2,100 人	720 人	34.3%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	0.1%	0.3%	0.1%	33.3%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	55,646 人	85,359 人	64,555 人	75.6%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	6.8%	9.8%	8.0%	81.6%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	174,448 人	81,966 人	85,873 人	104.8%

※目標未達成の指標のみを記載。

## 2 目標が達成できなかった要因

### 【ごみ処理】

#### <事業系 1事業所当たりの排出量>

事業系総排出量は目標値を上回ったが、事業所数が目標設定時36,310事業所から今回実績として35,552事業所（主として従業者規模が1～4人の小規模事業所）が大きく減少したことが主な要因と考える。

#### <家庭系 1人当たりの排出量>

家庭系総排出量は目標以上に減少したが、人口が目標設定時838,800人から今回実績として805,110人と3万人以上大幅に減少した一方で、世帯数は36,695世帯増加したことが主な要因と考える。

#### <直接源化量・総資源化量>

民間回収拠点の整備が進み拠点数が増加したため、利便性の高い民間回収拠点に資源が回り、資源物集団回収量が年々減少していることが主要因と考える。

#### <中間処理による減量化量>

民間バイオマス施設が稼働することを見込んでいたが、未だ計画段階であり稼働していないことが主な要因と考える。

### 【生活排水処理】

#### <合併処理浄化槽等>

汚水処理人口普及率目標達成のため、計画に基づき汚水処理施設整備を進めてきたが、公共下水道整備を除き、実績は目標を達成することができなかった。これは当初計画時に設定した行政人口値を増で見込んでいたが、人口減少が続き、集落排水処理施設やコミュニティプラントについては処理人口が増加しなかったことから、これが主な要因と考える。

合併処理浄化槽は、浄化槽設置整備事業等を活用し、合併処理浄化槽の汚水衛生処理人口増加に努めたが、実績は目標を達成することができなかった。これは、広報誌及び市ホームページを活用した周知に加え、本計画と併せ浄化槽区域の各戸へ合併処理浄化槽の普及促進のための戸別訪問を実施しているが、現時点では市域全体への周知は完了しておらず、これが主な要因と考える。

## 3 目標達成に向けた方策

### ごみ処理 目標達成年度 令和7年度まで

- ・事業系 1事業所当たりの排出量については、各事業所に対して事業系ごみの適正区分や生ごみの減量等を指導することにより、総排出量の削減に向けた取り組みを行う。
- ・家庭系 1人当たりの排出量については、ごみ減量天下取り大作戦による3つの作戦（生ごみダイエット作戦・雑がみ救出作戦・モッタイナイ作戦）の遂行により減量に取り組むとともに、自治会等を対象とした説明会を積極的に行いごみの減量の周知啓発の強化を行う。
- ・直接源化量、総資源化量については、雑がみの周知徹底や雑がみ救出作戦の実行により資源化量の増加を図るが、近年の市スーパー等の拠点回収の増加や集

団回収量の減量等を考慮すると、当初の目標を達成することは困難と考えられるため、目標値の修正も含め検討する。

- ・減量化量については、民間バイオマス施設の建設の目途が立っていないことから、目標値の修正も含め検討する。

生活排水処理 目標達成年度 令和6年度まで

- ・汚水衛生未処理人口は、目標未達成ではあるものの、着実に合併処理浄化槽の整備を進め引き続き汚水処理人口普及率目標成のため事業を実施する。

浄化槽設置整備事業 … 補助基数総数9,100基 処理人口109,000人

※ 平成30年度補助実績 871基

(都道府県知事の所見)

計画期間内に目標を達成できなかった項目については、上記の方策を着実に実施するとともに、更なる評価分析を行った上で目標達成に向けた努力を期待する。

県としても、改善計画が着実に実行されるよう必要に応じて情報提供や助言を行い支援していく。